

2011 わがまち風景賞

この賞は、桐生市の個性あるまち風景を形成している建造物や空間等のうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与することを目指すもの。11回目となる今年も5件が選出された。



史跡の豊かな山里 鹿角の小集落

黒保根町下田沢鹿角地区は、赤城山一ノ鳥居の東に位置する小集落。この土地から明治初期に初めてアメリカへの生糸の直輸出を実現した新井領一郎を輩出している。領一郎の孫にあたるのが、ライシャワー駐日大使の夫人となった松方ハル。第二次世界大戦の時、ハルは戦火を避けて祖父の生家に疎開した。また、自由民権運動に身を投じた新井毫（ごう）が生まれたのも鹿角である。昔日と変らぬ長閑な風情で心安らぐ鹿角地区だが、掘り起こせば日本の産業や政治を動かした人物や歴史に行き当たる。

所在地 桐生市黒保根町下田沢鹿角

地区会長 大川修明

小池家住宅

140坪を超えと思われる木造二階建ての主屋を中心に、門、塀、二棟の蔵、物置を配し、新里町屈指の大型農家の形態を留めている。この家を守るのが合併前の新里村長を務めた小池仍寿さん。間口11間を超える主屋は、昭和の初め、祖父と父の時代に建設されたものという。現在、三世代7人の家族で守る典型的な大農家の姿は、日本の近代化の礎となった養蚕製糸業の歴史と重なり、織物のまち桐生にとってかけがえのない風景である。

所在地 桐生市新里町関 537

所有者 小池仍寿



パティスリーウチャマ & 若宮とうふ

ウチャマは、昭和39年に創業した老舗洋菓子店。同25年頃に建てられた5連のノコギリ屋根工場の西側2連を使い営業を始めた。昨年8月からノコギリ屋根工場の特徴を生かした改装工事に着手し、今年1月に新店舗が完成した。

若宮は、同ノコギリ屋根工場のうち東側の3連を利用している。以前はこの工場で縫製業を営んでいたが、平成7年春に豆腐料理の店として開店、飲食店への転用の先駆けと言える。ノコギリ屋根の特徴を生かし、高い天井からは柔らかな光が降り注ぎ、店内中央には囲炉裏を配して、懐かしい雰囲気の中で食事が楽しめる。

●パティスリーウチャマ 所在地 桐生市東 5-4-27 代表者 内山 純

●若宮とうふ 所在地 桐生市東 5-4-31 代表者 佐々木綾子

カトリック桐生教会

昭和33年に完成した聖堂は、外観はロマネスク風。内部の尖頭型アーチや窓枠等はゴシック様式が取り入れられた鉄筋コンクリート造り。延面積330.4㎡、建物高さ10.8m、屋根上の十字架までの高さは約20mある。構造的にも耐震性に優れ、その構造体と内部空間が一体化し、宗教建築としての象徴性を高め美しい。大聖年（西暦2000年）を機に設置されたライトアップにより、夜空に映える鐘楼はひと際荘厳である。

所在地 桐生市東 1-13-27

神父 バルトロメオ



丸勝商店＋中央商店街ビル群

本町中央商店街の近代化事業計画は、商店街を3階建て以上の中高層化する、片側3.5mの歩道を両側に設け、これを含めて道路幅員を18mにする、歩道にはアーケードをつけて、1階の商店間の仕切りを無くした横のデパート化を図るというものであった。この事業で活躍したのが川田磯次郎氏。昭和30年頃、自分の店である丸勝商店単独で中高層化に踏み切り、店舗を拡張、近代化して成功を収めた。国の高度化事業資金を導入したのとしては全国最初で、商店街づくりの模範となったほか、市内の各商店街近代化事業のお手本となった。

所在地 桐生市本町 5-351

代表者 西井憲一郎